

優秀賞

## 「コブの中心」

群馬県

群馬大学教育学部付属小学校 三年

伊佐 碩 恭

おばあちゃんの左あごには、でっかいコブがある。最初は目立たなかったけど、会うたびに、どんどん大きくなっていくのがわかった。赤ちゃんが生まれる時の、お母さんのおなかみたいだ。

ぼくのおばあちゃんは、ここからずっとはなれた、海の近くに一人で住んでいる。

「ぜんぜん気にしてないよ。もう七十五才だし、嫁に行くわけじゃあないんだがら。」そう言っただけで、おばあちゃんはすごく気にしていると思う。だって、いっしょに写真をとる時、いつもぼくの右側に来て、左側をむくのを知ってるんだ。出来上がった写真を見ると、横目でにらんでいるみたいで、ちょっとこわい。本当はすごくやさしいのに、何だか変だ！

おばあちゃんは、一人暮らしのもっと年を取った人たちにご飯を作ってくれたり、畑でとれた新鮮な野菜をみんなにくばってるんだ。ボランティアで、小学校に行くと、野菜の作り方も教えている。今日は、海でとってきた青のりと大豆を入れて、きねでおモチをついたんだって。その豆モチは、明日の朝、ぼくの家にも届くらしい。でも、そんなのはいつものことで、おばあちゃんは、おせちとか、かしわもちとか、もどりがつおのにつけとか、季節の美味しい手作り料理を、毎月届けてくれるんだ。それに、（ひろちゃんえ）とむかし風に書いてあるふうとうには、いつもやさしいおつえんの手がみが入っているから、すごくうれしい。おばあちゃんの大きなダンボール箱を開けると、プーンといいにおいがするけど、それは、海や土のにおいに、おばあちゃんのやさしい心がたっぷりまざったにおいだと思ってるよ。

この間、東京でぼくのお祝いの会があった時、おじいちゃんやおばあちゃんも来てくれて、写真をたくさんとったんだ。家に帰ってプリントしてもらったら、おばあちゃんはカメラをまっすぐ見て、とっともうれしそうに笑っていた。ぼくの右側だけじゃなく、左側でも後ろでもずっと笑っていた。ねいの大きなコブもぼちりうっつっているけど、（ぼくのおばあちゃん！）って感じのいつもの笑顔で、ちっともこわくない。いい感じ！うれしかったよ。すぐに電話で、

「写真が出来たから送るね。すごく良くうつってるから、コブなんて気にしなくていいよ。もしかして、また嫁に行くつもり？」って言ったら、おばあちゃんは大笑い。今度会ったら、

「おばあちゃんのコブの中には、やさしい気持ちや親切心がたっぷりつまってるんだから、コブもおばあちゃんなんだよ。」

って、ぼくの気持ちを教えたい。そして、

「いつもおつえんしてくれてありがとうー。」って。おばあちゃんの顔を見ると、何だかはずかしくて言えないんだ。「ごめんね。」

ぼくは、おばあちゃんのコブが、どんどん大きくなる理由がわかってるからね！